

南都学・北嶺学の世界

法会と仏道

楠 淳澄 編

▼A5判・並製カバー・三〇〇頁 本体 四、五〇〇円十税

仏教学・歴史学・建築学などの幅広い視野より伝統ある「法会と仏道」の意義を明らかにするとともに、東日本大震災における仏教者の活動を通じて、仏道の現代的意義を問う。

2018年4月刊行



【编者紹介】
一九五六年生まれ。兵庫県出身。龍谷大学文学部仏教学科卒業、龍谷大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学、龍谷大学専任講師、助教を経て、現在、龍谷大学教授、アジア仏教文化研究センター長。専門は仏教学、特に唯識教学。主要著書『論文に「日本中世の唯識思想」』共著 永田文昌堂、一九九七年、『論義の研究』共著、青史出版、二〇〇〇年、『儀礼に見る日本の仏教』東大寺・興福寺・薬師寺』共著、法蔵館、二〇〇一年、『心要鈔講読』永田文昌堂、二〇一〇年、『問答と論争の仏教』共著、法蔵館、二〇一二年、『暮らしに生かす唯識』探究社、二〇一三年、『回峰行と修験道』聖地に受け継がれし伝灯の行』龍谷大学アジア仏教文化研究センター文化講演会シリーズ1、編集、法蔵館、二〇一六年ほか多数あり。

【目次】

序 文——南都学・北嶺学の構築に向け——

第一部 法会と論義

中世南都諸寺の法会——講説・論義・打集を中心に——

法相論義と仏道——「二仏信仰」か「多仏信仰」か——

《薬師寺の法会 慈恵会（写真と解説）》

第二部 法会の空間

法会と講式——南都・北嶺の講式を中心として——

歌人の儀式の『月講式』——鴨長明と道元における三界唯心——

法会と仏堂

《薬師寺の法会 弥勒縁日（写真と解説）》

楠 淳澄

第三部 僧の生活と持律

北嶺の戒律——実導仁空を中心に——

南都の戒律——中世の復興から現代を考える——

親鸞と戒律——無戒名字の比丘——

楠 淳澄

ポール・グローナー

蓑輪顕量

玉木興慈

《薬師寺の法会 修二云花会式（写真と解説）》

第四部 東日本大震災と仏教——仏道の現代的意義——

【基調講演】今、仏教に何ができるのか——被災地をめぐる——

【講演1】岩手県陸前高田市における浄土真宗本願寺派の対人支援について

【講演2】宮城県名取市における浄土真宗本願寺派の対人支援について

【講演3】問われた我々の存在意義——天台宗防災士の誕生——

【講演4】仏教徒として、今やるべきこととやっておくべきこと

【パネルディスカッション】東日本大震災と仏教——仏道の現代的意義——

コメンテーター 若原雄昭

大谷徹契

金澤 豊

安部智海

高見昌良

森本公穰

注文書	様冊
(書店印)	ご担当
法蔵館 楠 淳澄 編	本体四、五〇〇円十税
南都学・北嶺学の世界 ——法会と仏道——	ISBN: 978-4-8318-6374-4 C3015
お電話	住所
お名前	

ご注文はFAX:075-371-0458

法蔵館

〒600-8153 京都市下京区正面通鳥丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

仏 教